

『ブラームスを語る／歌曲の世界』

＜ブラームスとウィーン世紀末芸術＞

- ブラームス エーオールのハーブによせて（メーリケ詩）作品19-5
きみが時折ほほえんでくれさえしたら（ダウマー）作品57-2
五月の夜（ヘルティ）作品43-2
ひばりの囀り（カンディドウス）作品70-2
セレナーデ（クーグラ）作品106-1
- アルマ・マラー 「5つの歌曲」より
- シェーンベルク S.ゲオルゲの「架空庭園の書」による15の歌曲 作品15 ほか

ソプラノ 長島 剛子（国立音大専任講師）
ピアノ 梅本 実（国立音大准教授）
お話し 関根 裕子（早稲田大非常勤講師、JBS 会員）
総合司会 西原 稔（桐朋学園大教授、JBS 顧問）



長島剛子



梅本実



関根裕子



西原稔

2008年4月6日（日） 2pm

ヤマハ銀座店 6F サロン（銀座1丁目-3-13 仮店舗内）

JR有楽町駅より5分。メトロ有楽町線「銀座1丁目」駅3番出口。丸の内線、銀座線、日比谷線「銀座駅」C9出口。

全自由席 ¥4000 学生¥2500 60席

- 第1回 2004. 1. 18 作曲家 安良岡 章夫 「ブラームスとシェーンベルク」
- 第2回 2005. 4. 3 指揮者 秋山 和慶 「ブラームス 交響曲第2番を語る」
- 第3回 2006. 4. 9 チェリスト 堤 剛 「ブラームスを語る」
- 第4回 2007. 4. 26 ヴァイオリニスト 加藤 知子 「ブラームスを語る」



後援 ドイツ連邦共和国大使館
ハンブルク国際ブラームス協会、米国ブラームス協会
共催 (株) ヤマハミュージック東京
主催 日本ブラームス協会 03-3990-0611（お問合先）
HP <http://www3.ocn.ne.jp/~jbs> 新期会員募集中

●ソプラノ 長島剛子 Nagashima Takeko

札幌に生まれる。北星学園女子高等学校音楽科を経て、国立音楽大学声楽科卒業。同大学院修士課程独歌曲専攻修了。1989年ドイツデットモルト北西音楽大学卒業。その後ケルン音楽大学マスタークラスにてリート解釈法の研鑽を積む。1991年帰国後は、歌曲、宗教曲を中心に活発な演奏活動を行い、1994年から毎年東京、札幌でリサイタルを開いている。2001年から「世紀末から20世紀へ」のシリーズを続け、19世紀後半以降の知られざるドイツ歌曲の紹介に積極的に取り組んでおり、その斬新な企画性と精緻でみずみずしい情感に溢れた歌唱は各地で大変高い評価を受けている。1998年「新ウィーン楽派」、2001年「世紀末から20世紀へ」のリサイタルにより札幌市民芸術祭大賞。また2003年1月には前年の「長島剛子・梅本実リートデュオ・リサイタル―世紀末から20世紀へ Part II (シェーンベルク:「架空庭園の書」による15の歌曲他)により平成14年度文化庁芸術祭優秀賞を受賞している。青木恵美子、伊藤京子、尾畑真知子、H. クレッチマー、白井光子、H. ヘルの各氏に師事。現在、国立音楽大学専任講師。日本演奏連盟会員。

●ピアノ 梅本実 Umemoto Minoru

東京芸術大学付属音楽高等学校、東京芸術大学を経て、1985年同大学院修士課程器楽科ピアノ専攻修了。末永博子、勝谷壽子、伊達純各氏に師事。1986年渡独。1989年ドイツデットモルト北西音楽大学卒業。さらに引き続きハンブルクにて研鑽を積む。R. F. クレッチマー、G. ハンゼンの各氏に師事。1992年帰国。東京、札幌、福岡各地でリサイタル開催。札幌交響楽団、九州交響楽団と共演。1997年文部省在外研修員としてドイツ・カールスルーエ音楽大学において白井光子・H. ヘルのドイツリート解釈法クラスで学ぶ。2000年第9回道銀芸術文化奨励賞、2001年第29回札幌文化奨励賞、2003年1月平成14年度文化庁芸術祭優秀賞受賞。北海道教育大学助教授を経て、現在国立音楽大学准教授。日本演奏連盟会員。

●お話し 関根裕子 Sekine Yuko

国立音楽大学卒業、筑波大学大学院文芸言語研究科博士課程満期退学。1996～98年ウィーン大学留学。現在早稲田大学などでドイツ語、音楽文化史の講義を担当。専門はウィーン世紀末文化、とくにホフマンスタール。2002年より早稲田大学演劇博物館21世紀COEプログラム(文科省)内「オペラの演劇学的アプローチ」では、客員講師としてオペレッタ、日本のオペラ受容史研究に携わる。主な論文に「新出 鷗外のホフマンスタール宛書簡」『文学』(岩波書店)、「18世紀ドイツのメロドラマ―〈ナクソス島のアリアドネ〉における音画」『初期オペラの研究』(彩流社)、翻訳書『ブラームス回想録集』全3巻(共訳、音楽之友社)、『ゲーテと出版者』(共訳、法政大学出版局)がある。日本ブラームス協会会員。

●総合司会 西原稔 Nishihara Minoru

東京芸術大学同大学院音楽研究科博士課程満期退学。現在桐朋学園大学教授、音楽史各論、シューマン研究、音楽美学概論の講座を担当。著書は音楽の社会史(音楽之友社)、聖なるイメージの音楽(音楽之友社)、ピアノの誕生(講談社)、〈楽聖〉ベートーヴェンの誕生(平凡社)、その他翻訳、監修など。シューマンの批評活動と各ピアノ作品の成立史を研究、その成果を音楽雑誌に連載。先ごろ音楽之友社より「ON BOOK21 シリーズ」で〈音楽史ほんとうの話〉、作曲家「人と作品シリーズ」全24巻の〈ブラームス〉を執筆し発行される。日本ブラームス協会顧問として企画運営のアドバイスをするとともに「リチャード&コンサート」を担当して、その研究内容は年会誌「赤いよりねずみ」に発表している。

<p>創立35周年記念 秋例会 第130回例会 ロマンティック・Jブラームス(3) ブラームスとロマン派作曲家たちの室内楽シリーズ 〈シューベルト to ブラームス〉 2008年12月7日(日) 2pm 青山ドイツ文化会館OAGホール 全自由 一般¥4500 学生¥2500 チケット 東京文化会館・東京芸術劇場 カットパ・bis (9月予定)</p>
--